

目標を持つということ

緊急事態宣言が延長され、休校措置も3ヶ月となってしまいました。この3ヶ月は3年生にとって高校生活の一番大切な時間でした。定期戦、総体、そして学習。すべてが叶わない社会情勢となってしまいました。同じような苦境が9年前にありました。東日本大震災です。当時私は石巻に勤務しており、あの大地震の直後は津波で街が破壊され、全く先のことを考えることができず、その日の食料の調達や情報収集することに必死でした。それでも日を追うごとに懸命な復旧作業が進み、約1ヶ月遅れで新年度のスタートすることができたことが思い出されます。今回の事態は震災の時以上に深刻で事態の進展が目で見えないため当時の状況よりもっと苦しい状況になっています。

大阪では緊急事態宣言を解除するガイドラインを発表しました。具体的な数値目標を掲げることで地域住民の自粛ストレスやもう少し頑張ろうというモチベーションを上げるためには大きな役割を果たすと思います。3年生の諸君も自粛疲れやストレスを強く感じているのではないのでしょうか？またそろそろ休校が2ヶ月を過ぎ、自分の目標を見失っている人もいないのでしょうか？一人で学習を進めることは根気と我慢強さが必要です。一人で学習し続けることはとても辛い作業です。受験に勝つためには心の強さが不可欠です。そのために古高をはじめとした進学校では文武両道を掲げている学校が多いのです。そこでもう一度自分の将来のことについて考えてみましょう。自分の将来の目標は一体何ですか？その目標を実現するためには何をしなければならないのでしょうか？この苦しい時期にもう一度目標を再確認し、強い気持ちで毎日を過ごしてもらいたいと思います。どんなに苦しいことでも必ず終わりはやってくるのでその日がやってくることを信じて頑張りましょう！

インターハイ中止

インターハイが中止になってしまった。一言で言うと「切ない」。一部では、プロによる人材捜しの場がなくなることについての懸念なども語られているが、そんな人たちはどうでもいい。インターハイがなくても、いろいろ活躍の場があるとはいつつも、高校で部活動に取り組む生徒の大多数は、プロなんか目指していない。日々の生活の充実のために部活動をしているのであり、その集大成がインターハイなのである。そこで「3年間やりきった」という達成感、充実感を得られるかどうか、これはとても大切なことである。

何人かのオリンピックがインターハイ中止を受けてコメントを出している。その多くが「かける言葉がない」といった内容が多いようだった。確かに日の丸と胸につけて日本代表としてオリンピックで活躍している選手の多くはインターハイに出場しているし、その経験の必要性もよく知っているはずである。しかしながら成功を収めている人からいくら慰めの言葉をもらったとしても今の高校3年生には響かないであろうことを想像することは簡単である。

どうすればいいのだろうか。何をしてあげることができるのだろうか。なんて言葉をかけてあげることができるのだろうか。そんなことを自問自答しても答えを見つけることはできないまま時間は過ぎ去っています。たぶん最後は誰かからの慰めではなく自分たち自身で今の気持ちを昇華するしかないんだろうと思います。

悔しい思いはエネルギーになって次のステージで必ず生かされます。私は高校生より大学生、大学生よりも社会人として活躍してほしいと願っています。

最近目にする9月入学についての私見

村井宮城県知事をはじめとした県知事の多くや評論家が9月入学に肯定的です。社会がますますグローバル化が進んでいる現在は9月入学がスタンダードである主張は理解できます。冷静に考えれば感染収束が見えない状況で例年どおりでのスケジュールでの受験は難しいのではないかと思います。9月入学となった場合どのようなことが起こるのでしょうか。ここでは高校3年生の世代だけの影響を考えてみます。

知っている人も多いと思いますが数年前に東京大学は9月入学制度を導入しようとした経緯がありました。目的は学生のグローバル化や国際コミュニケーション能力を高めるなどを掲げていましたが、一番は海外からの優秀な学生を迎え入れやすくする狙いがあったと思います。ということは9月入学が制度化されると就職試験などで優秀な留学生と同じ土俵で勝負することになります競争が激化することが想像できます。そうなれば今まで以上に競争に打ち勝つだけの能力やメンタル的な強さが不可欠です。この9月入学は社会の大きな変化が伴いますので高校生を含めて大いに議論して周知を図ったうえで制度の移行が必要なのではと考えています。

(文責 遠藤 直樹)